

## 広島市立安佐市民病院を受診された患者様へ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください

研究課題名	大腸癌術後吻合部狭窄に対する Radial Incision and Cutting (RIC) 法を用いた狭窄解除術の治療経験
研究責任者 (所属科名)	永田信二 消化器内科 主任部長/副院長
本研究の目的・意義	大腸癌術後吻合部狭窄は、術後合併症の一つであり、治療に難渋することがあります。治療法としては、低侵襲かつ手技的に容易な非手術的拡張術が一般的で、経肛門的に到達可能な病変には用手的拡張術が、それ以外の病変には、内視鏡的バルーン拡張術 (EBD) が施行されています。しかし、難渋例は再手術となることもあり患者さんの QOL 低下につながります。Radial Incision and Cutting (RIC) 法は、2012 年に Muto らによって報告された新しい内視鏡的狭窄解除術であり、食道癌術後難治性吻合部狭窄に対して施行された報告は散見しますが、大腸癌術後吻合部狭窄に対して施行した報告は少ないです。今回の検討で大腸癌術後吻合部狭窄に対する RIC 法の治療成績を検討します。
調査方法・研究期間	後ろ向き観察研究 データ収集期間：2010 年 1 月から 2021 年 12 月 研究期間：2023 年 3 月までを予定しています。
該当資料・データ	★対象となる患者様 2010 年 1 月から 2021 年 12 月までに安佐市民病院で大腸癌に対して腸管吻合を伴う大腸切除を施行した 1,768 症例(腹腔鏡下手術 452 例, 開腹手術 1,280 例, ロボット支援直腸癌手術 (Robotic-assisted rectal cancer surgery: RARS 36 例) のうち、吻合部狭窄に対して RIC 法を使用した方。 ★利用する情報 電子カルテに記載のある診療記録、検査データを利用します。
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報 は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は利用しません。

共同研究機関	当院単独で行う臨床研究ですが、治療後より経過の追えない患者様に関してかかりつけ医に問い合わせを行う場合がございます。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	広島市立安佐市民病院 研究担当者：消化器内科 部長 朝山 直樹 電話：082-815-5211
備考	